



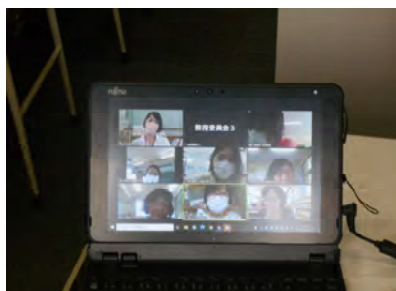
第1回 学校司書研修会

6月15日（水）、「令和4年度第1回学校司書研修会」がZoomにより開催されました。

前半は、小中学校教育課より本年度の学校図書館教育についての説明があり、それに続き、学校図書館支援センターから支援センターの利用について、学習支援用図書セット改訂について、「総合百科事典ポプラディア」「こども六法」の訂正情報について説明があり、最後にICT推進課からの説明がありました。

後半は、グループ情報交換が行われました。主に、選書・除籍・廃棄についてと、読書活動の取り組みについて活発に協議されました。子どもたちの読書活動推進のために、読書カードの工夫、新刊紹介の掲示の工夫など、また、管理職も含め学級担任みんなで読み聞かせをするなど各学校での様々な工夫が話し合われ、有意義な研修会でした。

8月17日（水）は「学校図書館担当者連絡会」がオンライン（双方向型）にて開催が予定されます。学校と学校司書の先生方との連携についての情報交換がなされることと思います。



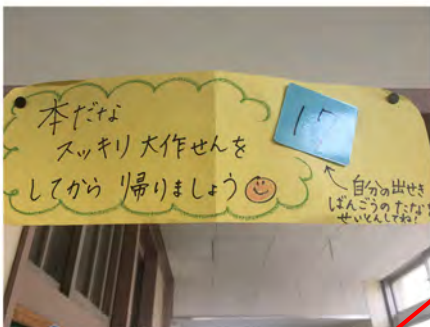


Hello! 学校図書館 長住小学校

今月は南区にある児童数578人の長住小学校を紹介します。
訪問した日は大変風の強い日でしたが、玄関のあじさいの掲示物に癒されながら校長先生に迎えていただきました。図書館は、最近学校用務員の先生方に書架を作ってもらったとのことで、大変きれいに整理されていました。子どもたちが読書に親しみやすい工夫がたくさんされていました。



すっきりと整理され、清潔感のある図書館でした。図書館に合わせて作ってもらった書架は、子どもたちが本を探したり借りたりしやすくなっていました。



書架に番号札が貼ってありました。何かなと思っていると、図書館から出るとき、自分の出席番号の札がある棚をきれいにして学習を終えるとのことでした。なるほど…だから図書館がきれいに整理されているのですね。すばらしい工夫ですね。

さまざまなコーナーの工夫



子どもたちがさまざまな本に興味をもったり、探したりしやすいように、コーナーがたくさん作ってありました。月ごと本が変わるコーナーもありました。本を借りる時、迷った時、助けてくれそうですね。

安全対策の工夫



机にはペットボトルを使って飛沫防止の亚克力板がありました。また、カウンター周りもきれいに整理され、亚克力板が立ててありました。手強いコロナウイルス感染に対する対策がきちんと講じられていました。

本の帯を使った7月の掲示・展示

夏らしい掲示物を作ってみました。夏の花と言えば、ひまわり、朝顔でしょうか。また、色とりどりの魚も団体貸し出し入口に泳いでいます。



花びらの真ん中に切り目を入れて、糊付けしたり、くきはラップの芯や紙テープを使ったりすると、立体的なひまわりができます！





8月の人ともの



8.1 水の日 (水の週間～7日)

水は私たちの暮らしに欠かすことのできない大切なものです。水や水資源開発への関心を高め、理解を深めるために、国土交通省が1977年に制定しました。水の使い方や水問題について考える催しなどが開かれます。

8.6 広島平和記念日

8.9 長崎原爆記念日

1945年8月6日広島、9日に長崎に原子爆弾が落とされました。広島では平和記念式典、長崎では長崎平和祈念式典がそれぞれ開催され、平和の尊さを伝えたり、世界平和を祈ったりします。

8.11 山の日

「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」として制定された新しい国民の祝日で、2016年から施行されました。日本は山の多い国です。山の恵みに感謝したり、豊かな自然に触れたりする機会にしたいものです。

あまん きみこ (1931.8.13～)

現実と空想の世界を行き来するファンタジーを多く書き、人の優しさや生きる喜び、悲しみを描いています。「車のいろは空のいろ」など国語の教科書に掲載されている作品も数多くあります。

宮沢 賢治 (1896.8.27～1933.9.21)

37年の短い生涯に、詩人、童話作家、教師、農村指導者として多彩な活動をしました。故郷、岩手の自然や風土をもとに詩や童話を制作。詩「雨ニモマケズ」や童話「注文の多い料理店」など多くの人に読み継がれています。

アーネスト・トンプソン・シートン

(1860.8.14～1946.10.23)

アメリカの作家、画家。厳しい自然の中で生きぬく動物の姿を動物保護の立場から描いた「シートン動物記」を発表、挿絵も自身で描いています。自然保護運動や青少年の自然教育にも力を尽くしました。

【あとがき】 いよいよ夏休みです。夏休みは、自由研究など調べ学習をする子が多いことと思います。インターネットを使っただけでなく、ぜひ、本を使って調べることとの併用をお勧めします。それぞれの良さを感じることも大切な学習です。

夏休み明けは、子どもたちが調べ学習で、何を使ってどのように調べてまとめたのかを、ぜひ聞いてみてください。

(足立)



今月はパンクロックを題材にした青春小説です。

『拝啓パンクスノットデッドさま』

石川 宏千花／作 くもん出版 2020年 ¥1400 (税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生★★★

高校★★★ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

高校1年生男子の晴己は、東京の多摩地区にあるボロアパートに弟の右哉と2人暮らし。父親は知らない。母親はたまにしか帰ってこない。2人を育ててくれたのは、若いころから晴己たちの母親に恋をしているにも関わらず、恋人候補にもなれていないしんちゃんと、しんちゃんが教えてくれたパンクロック。孤独や不安に押しつぶされそうなとき、晴己はいつもパンクロックを聴いた。友達や同世代はほとんど聞いていないパンクロック。しんちゃんは「パンクロックは死んだ」と言うけれど、晴己と右哉は自分たちのパンクロックバンドを持つことだけが希望だった。

そんな中、いろいろな偶然が重なって晴己は右哉とバンドを結成することになる。けれどその矢先、母親が突然帰宅、再婚して右哉だけを連れて行くと言い出した。

<子どもに手渡す時のポイント>

『お面屋たまよし』シリーズ(講談社)で人気の著者です。そのことを伝えてあげると読みたいと思う子もいるかもしれません。

子どもに馴染みな少ないパンクロックが題材ですが、ストーリーは希望のある青春ストーリーなのでその部分を紹介してあげると手に取りやすいと思います。具体的なパンクロックのバンド名や曲名がたくさん出てくるので、気になる子にはYoutubeなどで検索してみるといいよと教えてあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。



発行：福岡市教育委員会

総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801